２０２３年８月２５日　金沢文庫キリスト教会　夏期修養会

閉 会 礼 拝

ルカによる福音書 第１０章３８～４２節

　38 一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。39 彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。40 マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」41 主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。42 しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

　天に富を積むことは、神の前に豊かになることです。そこでは、私どもの普段生活している中での価値観と多少違う場合があります。今朗読しました聖書箇所は、そのことを教えてくれています。私どもはお客さんに対して、一所懸命「おもてなし」をします。マルタはそうしました。しかし、神の前にあって、そして、神の御子主イエスの前にあって、まずなすべきことは、それとは違いました。主イエスが何よりも望まれていることは何であるか、マリアはすぐに気付いたのです。このマリアの姿勢こそ、天に富を積むために必要なのではないでしょうか。主なる神は、そして、神の御子はこの私にまず何を望んでおられるか。それをいち早く察し、それを実行に移すことが私どもに求められているのです。

　残念ながら、マルタは一所懸命ですが、「多くのことを思い悩み、心を乱していた」のです。そのマルタから見れば、マリアは呑気で、能天気に見えたことでしょう。しかし、天に富を積むことを第一にしようとすれば、マルタのように多くのことを思い悩むことと心を乱すことを止めなければならないようです。

　そこで問われるのが、「今は何を優先すべきか」をその時々でしっかりと判断できるように常に冷静な目を持っているかであり、そこから、何を第一にして生きるかをしっかりと認識することではないでしょうか。それは、何に価値を置いて生きるかということに通じるのではないでしょうか。何に価値を置くか、何を第一にして生きるかで、人の生き方は大きく変わります。その中で、主イエスは天に富を積みなさいとおっしゃるのです。

　「天に富を積む」生き方は、時によっては、地上において富むことを諦めることでもあるかもしれません。たとえそうであったとしても、信仰者にとって本当の豊かさとは何かということを、自問自答し、選び取っていくことが私どもには求められると思います。主イエスが「天に富を積みなさい」とおっしゃったことを、自分自身の生き方、日々の生活の課題として、歩んでまいりましょう。

　お祈りを致します。

　主イエス・キリストの父なる神よ。本日の修養会をあなたがお導きくださいましたことを感謝致します。どうぞ、私ども皆が天に富を積み、あなたの前に豊かになることができますよう、お導きください。そして、あなたの救いを頂くことができますように。そして、これからの金沢文庫キリスト教会の歩みもあなたが豊かにお導きください。主の御名によって祈ります。アーメン。

祝祷

主があなたを祝福し、あなたを守られるように。

主が御顔を向けてあなたを照らし／あなたに恵みを与えられるように。

主が御顔をあなたに向けて／あなたに平安を賜るように。

(民数記 第６章２４～２６節)

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、

あなたがた一同と共にあるように。

(コリントの信徒への手紙 二 第１３章１３節)

アーメン